

# お茶の時間



11月8日は、いい歯の日。そして今年も読者週間標語が発表された。  
寒暖の差にあたふたし、秋をしみじみ感じないままだったが、今年  
の標語を知りよやく一息ついた。

2023年度標語「私のペースで（しおりは進む）」  
ゆったりした感じが素敵だなあ

20年度 「ラストページまで 駆け抜けて」  
21年度 「最後の頁を閉じた。違う自分かいた」  
22年度 「この一冊に、ありがとう」

新聞報道などで、本を読まない人が増えた、と憂えるか、本を愛する  
人は消えてはいない。

秋のサルスベリの、紅い落ち葉を拾っては、2004年度の標語  
「落ち葉を（しおりに）読書の秋」を思い出す。私の生活には（おは）  
欠かせないのだ。

そして 長田弘さんの詩「世界は一冊の本」を口述む。

本を読む、もっと本を読む、もっと本を読む。  
書かれた文字が竹か本ではない。  
日の光り、星の輝き、鳥の声、川の音だて、本なのだ。

この続きは、ぜひご自分で手に取ってお読み下さい。

生きるとは、考えることができるということだ。と長田弘さんの  
詩は続く。

矢野龍一（演劇・演藝評論）の、「人生読本 落語版のあとがきから抜粋」。  
15年前発行の岩波新書だ。  
こんが言葉が心に響く。年を取ったものだ。気合充分、元氣ツツクに見られるが  
相当がタがきいている。只、泣きごとが嫌いなだけ。ノンノしたて誰も助けてはくれない  
この本を讀んでいた頃だ。たと思いが「別子さん、人間、死んだらおしまい、まのよ」と  
モッパリ言た叔母の言葉が忘れられない。  
その叔母も、今91歳。シヤキツとしていいる。

世の中、ますます悪くなるが  
「長生きしななかな、すすもんじやない」とは  
これっぽかしも思わない  
むしろ、もっと生きつづけて  
世の中、どこまで悪くなるか見とどけたい気分だ。



## 歯のよもやま話 第五十八話

### 歯の神様 四

コロナ禍でしばらく外出を控えていま  
したが、そろそろ良いかなと久しぶりで  
上京し、歯の神様巡りをしてきました。  
まず訪ねたのは、荻窪白山神社です。  
私が学生時代住んでいたのは、荻窪駅前  
で、まさかそのアパートのすぐ近くに歯  
に関係する神様がいらつしやるとは知り  
ませんでした。一五

世紀に関東管領上杉  
顕定の家臣中田加賀  
守が勧請したと伝え  
られています。加賀  
守の弟兵庫が激しい  
歯痛に苦しんでいる  
と白山の神が夢に現  
れ「境内の萩を箸と  
して食事をするよう」とご神託があり、  
そのようにすると痛みは治まったそう  
です。歯痛に靈験あらたかな神様として参  
詣者も多かったようです。社殿改築の際  
には萩の箸が山のように出てきたそう  
です。昔は萩も萩もあまり気にしなかつた  
みたいですね。ここには、歯の御守りが  
置いてありました。昔のアパートはどこ  
だったのか探してもよくわかりません  
でした。六十年近くも前だもんな。

新橋駅前浜松町よ  
りに日比谷神社とい  
う神社があります。  
創建は不明ですが四  
百年以上前からあつ  
たそうです。当時は  
江戸湾の海岸で魚が  
たくさん上がったそ  
うです。



日比谷神社



荻窪白山神社

うで旅泊稲荷明神と称されてきました。  
慶長年間に江戸城日比谷御門の造営の折  
に、現在地近くにに移り社号も日比谷神社  
と改称され、鯖稲荷とも称されました。  
大正末期から昭和初期に再度移転して  
現在に至っています。何度も移転を繰り返  
返していることから絶対くじけない神様  
として信仰されています。昔から、むし  
歯の虫封しに苦しむ人には靈験ありとさ  
れ、五十年ほど前までは、祈祷の際に上  
下の歯列を記した紙を授け、痛む歯に印  
をつけてこれを痛む歯で噛み、鯖断ちと  
共に治癒を念じ癒った後にはお礼として  
鯖を奉納したそう  
です。しかし保健  
所から「不衛生」  
との理由でこれを  
禁じられ、鯖も絵  
馬に変わりました。  
ここにも歯の御守  
りが置いてありま  
した。  
以前に触れた文京区白山通りの白山神  
社にも行ってきました。こちらは歯ブラ  
シ供養などもしていたのですが、コロナ  
禍以来止めてしまったとのことで残念で  
す。「お口に入った  
もので不衛生だか  
ら」ということで  
今後も行わないそ  
うです。なんだか  
なー、やりようが  
あるよなー。ここ  
は中国の辛亥革命  
の指導者孫文がハ  
レー彗星を見て中  
国革命の成功を確信した場所だそうで孫  
文のレリーフ像があります。



白山神社



御守り 左：荻窪白山神社 右：日比谷神社

子田晃一

思いあれこれ

伊勢丹から歳暮の案内が馬車、が厚い冊子をめくりながら、どういふは...

「お茶の時間」の投稿者から、お茶の時間... 朝日新聞「ひとと世」欄に投稿した...

「ひとと世」の投稿者から、「お茶の時間」... 「義母から刺繍を施した豪華なバ...

贈り物



プレゼントを使う、使わない、は贈り物... プレゼントを求めたり、贈る相手の品を...

「50代」 私も娘たちも喜んで頂戴致します... 趣味性の個性の強い物も、子供への...

「60代」 記事を読み先ず感じたことは、投稿者... 「記事を読み先ず感じたことは、投稿者...

60代

「私より義母が物」を下さると言われ... 「私より何であらうと満面の笑顔と、あり...

「お茶の時間」の読者から届いた感想... 「お茶の時間」の読者から届いた感想...

「お茶の時間」の読者から届いた感想... 「お茶の時間」の読者から届いた感想...

いいもの みつけ!

8月、新潟市万代島美術館で開催された... 「シタケ シンクス」展も「お茶の時間」...

「50代」 あまりにも重い、開けかけにゆりや考えさせ... 「あまりにも重い、開けかけにゆりや考えさせ...